

図書館だより

第 20 号

昭和 60 年 10 月 25 日

愛媛大学附属図書館

目 次

- | | |
|-----------------------------------|---------------------------|
| ○図書館を考える⑩
高度情報化社会と図書館…………… 1～3 | ○資料さがしABC…………… 5 |
| ○教科書への思慕…………… 3～4 | ○昭和59年度愛媛大学附属図書館統計…………… 6 |
| ○愛媛大学附属図書館委員会…………… 4 | ○お知らせ…………… 7～8 |

図書館を考える……⑩

高度情報化社会と図書館

事務部長 浅野次郎

1. 文献検索

「『魚蛋白質の高血圧に及ぼす影響』についての文献を求む」これは本年5月に医学部分館のレファレンス担当者が実際に受け付けた調査依頼の一つである。担当者は早速同館に設置されている情報検索用端末機を使って、米国国立医学図書館が作成し、日本科学技術情報センター（JICST）の情報サービス「JOIS」の中の「MEDLINE」データベースを検索し、1980—85年間のファイルから、検索戦略を駆使し適合文献4件を検出した。所要時間2分。これを手作業で処理したとすると、Index Medicus, Biological Abstracts, Chemical Abstracts, 医学中央雑誌などの二次資料をペラペラめくり、やっとリストアップしたものがノイズあり、脱漏ありでがっかり、複雑な質問には1件で1週間、という例もある。このほか、大手書店、新聞社などが直接、あるいは国際電々の回線を介して、科学技術から人文・社会科学分野にわたるデータベースサービスを提供しているケー

スは、枚挙にいとまがないが、料金が高く、システム毎にコマンドが統一されていない、収載ファイルの網羅性を欠くなどのマイナス面も指摘されている。

さて、文献検索の結果えられた結果について抄録でなくオリジナルそのもの（一次情報・原文書情報・フルテキストなどいろんな言い方がある）を入手するのがまた大変である。学術雑誌については、内外主要図書館が雑誌目録を刊行しているし、文部省・東京大学文献情報センターが逐次全国規模の総合目録を編集刊行しているから、タイムラグはあっても、一応何処にあるか（所在情報）わかる。しかし、単行書となると、いくつかの検索手段はあっても網羅性・迅速性に欠け、しかもキーワードが概ね1個で多面検索ができないというカード乃至冊子体目録としての致命的欠陥もっている。当該大学の蔵書だけは検索できる明治以来の大学附属図書館のカード目録も、専門化と総合化の織りなす複雑化が加わりつつある最近の

出版物についての検索の手がかりとしては、一枚一意というカードの物理的限界、ますます膨大化するカードファイルへの新規カードの繰込作業の困難さなどの原因により、研究室など限られた蔵書の検索は別としても、もはやカレント性を失いつつあると言っても過言ではない。かりに所在情報が適確にえられたとしても、一次情報の入手が大変である。「大規模 国立大学の 部局図書館に文献複写を頼むよりも、BLLD (British Library Lending Division) に頼む方が簡単で早い」という状況は、申込書式の統一、料金精算方式の機械化・合理化などという館界・文部省の改善努力により少くとも国立大学間では解消したが、公私立大学との間、あるいは現物の相互貸借 (Inter Library Loan: ILL) はまだ不十分である。

2. 学術情報システム

わが国の学術情報流通システムは、先進諸国に比して10年以上遅れているとよく言われるが、遅れを取り戻すこととともに、資源小国としてのわが国が技術立国として世界に寄与するために構想されたのが、「学術情報システム」である。学術審議会は、昭和55年1月「今後における学術情報システムの在り方について」文部大臣に答申したがその中で、学術情報機関 (国公私立大学図書館・大型計算センター・国立大学共同利用機関) ネットワークの中核機関として「学術情報センター (国立大学共同利用機関)」の設置を提言した。同センターの諸機能の中で直接大学の利用者に関係あるものは、①二次情報検索サービス (はじめに述べた MEDLINE サービスはその一例、わが国研究者が必要とするデータベースを網羅的に集め低料金を統一したコマンドで検索可能) ②目録・所在情報サービス (図書・雑誌の目録、検索、ILL) がある。現下の厳しい財政状況下、機構の新設が抑制されている中で、文部省では一步でも学術情報システム実現を図るため、図書館に直接関係ある目録所在情報サービスを先行させるべく、学術情報センターのプロトタイプとして、昭和58年度に東京大学文献情報センター (文情セ) を設置した。因みに来年度概算要求では、学術情報センターに「昇格」し、当初予定したすべての機能が実現する予定と聞く。かねてから高度情報化社会における大学図書館の活性化に重大なイン

パクトを与えるものとして、たびたび学術情報センターの設置要望を繰り返してきた国立大学図書館協議会では、加盟館の中でも準備の整った大学から文情セのネットワークに参加している。すなわち、昭和59年11月21日、東京工大図書館が文情セと歴史的な接続を完了したのに続き、本年度に入って名大、阪大が、さらに来年度にかけて京大、北大、東大の各大学をはじめ10数大学、加えて首都、中京、近畿圏の一部私大がネットワーク作りに参加することになる。当館でも現在、貸出返却、雑誌受入業務を電算化しているが、業務量が多く問題点も多い図書の整理・検索業務を、先発館のノウハウを摂取しながら学術情報センターを利用することにより改善を図ることを計画している。先発館の状況を見ると、文情セ目録所在情報データベース (わが国をはじめ先進国中央図書館等のマシンリーダーデータより成る) をオンラインで利用することにより、目録が標準化・正確化し同時に省力化して、大学によっては図書の整理日数が半減しているところもある。

3. ニューメディア

我々が住んでいる愛媛県では、今技術立県をめざしテクノポリス指定に尽力している。換言すればハイテク、ニューメディア志向である。ところでニューメディア時代の図書館はどうなるか。最近「電子図書館」ということばをよく耳にする。電子図書館が収集する資料の生産についての「電子出版」については紙幅の都合でここでは触れない。研究者が学術情報システムを使って検索した必要一次情報の ILL による入手に関しては、申込から現物の受領通知までの業務情報は同センターの電子メールで処理するが、現物は当分の間郵送という旧来の方法を続けることになっている。しかし、この分野の進歩の速度は予想外に早い。一次情報を光媒体にストアし、情報検索と連動してオンラインで利用者の端末機に送信するという「電子図書館」について、東大工学部猪瀬博教授 (現文献情報センター長) の科研費研究成果報告 (昭58.3) により実験的に成功と知った頃、すでに欧米では ADONIS (Article Delivery Over Network Information Service) 計画が動き出していた。科学技術分野の学術雑誌を出版しているエルゼビアなど5社が共同して、その発行する

雑誌を光ディスクにストアし、通信衛星などを使って世界各国にオンラインサービスをしようとするもので、世界に設けられるセンター4か所には日本も入っている。一方各社はハードコピーの雑誌発行部数を漸減し、ニューメディア志向と併せて複写乱増から版權を守る一石二鳥を狙っているとのことである。この計画は出版社間の思惑の違いから実現が停滞しているが、電子出版と電子図書館をリンクしようという発想は今後ますます盛んになるであろう。因みに、広大では瀬戸内地域情報をデータベース化し、オンラインサービスを開発中であるし、百科事典のフルテキストサービスをしている業者もある。国立国会図書館の全蔵書は費用を捨象すれば、光ジュークボックス2本に充分収納可能で、さらに2本あれば大学・公共図書館全部が入ってしまう計算になる。はたして図書館は21世紀に生き残れるのか？（「図書館の終焉」という著作があったようだ。）グーテンベルク以来の活字が残るかぎり図書館は安泰なの

か？ ADONIS にしても科学技術関係の雑誌僅か900種を当面の対象としているだけであり、光媒体がいかに将来性があるとしても、二次情報はともかく既往に遡って一次情報をすべて入力することは不可能に近い。本という媒体は極めてハンディで大量生産向で大衆的である。従ってその本がなくならない以上図書館もなくならないという図書館安泰論も根拠がある。図書館が今ただちにその役割を失うかの如き極端な考えは採れないにしても、だからといって従来手法を続けておればよいわけでもない。「図書館雑誌」60年9月号で原田勝氏（京大教育学部助教授）は次のように述べている。「……『古き良き図書館』のイメージに固執するのも悪くはないかもしれない。長い歴史の中で確立されてきた伝統が、ある日突然無になることはないからである。しかし、その『良き』図書館というのが、本当に利用者にとっての『良き』であったかと考えてみることも必要なのだろう。……」

教科書への思慕

吉 田 裕 久

これまで4階奥の、陽の当たらない、薄暗い部屋に陳列されていた約3万冊もの小学校・中学校・高等学校用教科書が、このたび、3階の人目に触れやすい、しかも南側に面した明るい部屋に、[教科書閲覧室]（愛媛大学教科書センター）として移設されることになったという。この朗報に接して、国語教科書研究に従っている私は、その貴重な資料が、少しでも身近になったことを喜ぶとともに、何よりもこれから多くの人に親しく教科書を見ていただけるようになったことを嬉しく思う。

愛媛大学附属図書館所蔵の教科書は、一部に戦前の国定教科書を含みながら、その大半が、戦後のいわゆる検定教科書で占められている。しかもその検定教科書については、発行されたもののうち、そのほとんどが収蔵されており、これだけ大規模の教科書を収集している図書館は、全国的に見ても珍しい。この点に関しては、愛媛大学附属図書館が、全大学中わずか2つしかない（他に福井大学）教科書センター——教科書の展示会場——

であるということが大きな影響を与えてきたものと思われる。そのうち、各地から、教科書研究者たちが、その閲覧を求めて来館する日がやってくるかも知れない。

さて、教科書といえば、学校教育の開始とともに使用されてきたものだが、近代学校教育制度がスタートして以来、今日に至るまでの小学校教科書の変遷を、その制度上から見ると、およそ次のように区分することができる。

- I 自由発行期 1872（明5）年の「学制」頒布から、1885（明18）年まで。
- II 検定制度期 1886（明19）年の「教科用図書検定条例」制定から、1903（明36）年まで。
- III 国定制度期 1904（明37）年の国定教科書の使用開始から、終戦後、1948（昭23）年まで。
- IV 新検定制度期 1949（昭24）年の新検定教科書の使用開始から。

こうして、新しい検定教科書が使用され始めてからでも36年、現在、国定教科書使用の世代（昭17.3以前の生まれ）と、検定教科書使用の世代（昭17.4以後の生まれ）とで、ほぼ2分されていると見ることができよう。

ところで、教科書に対する感慨ということになると、それはもとより個人的なものであるが、どちらかと言うと、やはり国定教科書で育った人たちの方が、懐旧の念がより深いように思われる。教材の文章をよく記憶していて、今なおそれをそらんじて言うことができるし、教科書談義に熱がこもるのも、この国定教科書使用世代の大きな特徴である。いま、国定国語教科書（巻一冒頭）とその使用世代（出生年月）とを图示すれば、次のようになる。

第Ⅰ期	イ エ ス シ	明30.4～ 36.3
第Ⅱ期	ハ タ タ コ コ マ	明36.4～ 44.3
第Ⅲ期	ハ ナ ハ ト マ メ マ ス	明44.4～ 大15.3
第Ⅳ期	サイ タ サイ タ サ ク ラ ガ サイ タ	大15.4～ 昭9.3
第Ⅴ期	アカイ アカイ アサヒ アサヒ	昭9.4～ 14.3
暫定教科書	アカイ アカイ アサヒ アサヒ	昭14.4～ 15.3

第Ⅵ期	おはなを かざる みんな な いいこ	昭15.4～ 17.3
-----	-----------------------	----------------

一方、検定教科書の方は、昭24・27・30・34・36・40・43・46・49・52・55・58・61と、ほぼ3年ごとに発行されてきている（検定はこの前年）。検定教科書は、国定教科書のように全国一律でないし、その扱い方も「教科書で教える」と変化してきたため、確かに国定教科書に対するほどの親密さはなくなってきている。が、それでも時おり、ゼミの学生諸君に、彼らが用いた小学校国語教科書を見せると、「わあっこれ習った」と一様に歓声をあげ、懐しそくにページをめくり、じっくりと見入っているその姿を見ると、教科書が、古今を問わず、人間の育成にどのような役割を果たしてきているのかということのを再思せずにはいられない。「教科書が人間を作った」とは、教科書研究の第一人者、唐沢富太郎博士の名言である。過日、私自身（昭31入学）が使用した国語教科書（志賀直哉他監修『小学校国語』、学校図書）に、教科書閲覧室で再会した。自らの幼い時分のアルバムを見ているような、そんな優しい気持になれた。

（教育学部助教授・国語科教育）

愛媛大学附属図書館委員会

昭和60年度附属図書館委員会

日時：9月26日（水）10：00～12：00

議題

- 昭和59年度学生用図書費及び後援会図書費の支出結果、並びに昭和60年度の推薦依頼について。

昭和59年度の購入状況並びに昭和60年度の推薦額について説明があり、審議の結果、

原案通り了承された。

報告事項

- 第32回国立大学図書館協議会総会について
- 愛媛大学事務組織規程等の一部改正について
- 教科書閲覧室の設置について
- 第26回中国四国地区大学図書館研究集会の開催について

愛媛大学附属図書館委員会委員

（ ）内は任期

附属図書館長 星 島 一 夫（昭61. 3.31）
 医学部分館長 志 賀 健（昭61. 9.30）
 農学部分館長 稲 岡 恵（昭61.10.31）
 法文学部 東 平 好 史（昭61. 3.31）
 吉 田 亮 三（昭62. 3.31）
 教育学部 白 方 勝（昭61. 3.31）
 柳 田 征 司（昭62. 3.31）
 理学部 棚 部 一 成（昭61. 3.31）

北 川 桂一郎（昭62. 3.31）
 医 学 部 樺 澤 泉（昭62. 3.31）
 工 学 部 松 木 三 郎（昭61. 3.31）
 花 山 洋 一（昭62. 3.31）
 農 学 部 徳 増 智（昭61. 3.31）
 教 養 部 池 田 洋 司（昭61. 3.31）
 高 木 裕（昭62. 3.31）
 事務局 長 古 谷 喬次郎

資料さがしABC

Q 1 : 日本における蠣（かき）の産地別最新収穫量を知りたい。

A : 当館所蔵の統計書『日本統計年鑑』、『ポケット農林水産統計』などの最新版を調べるよう指示する。それらには年次の全国数値はあったが、都道府県別の数値の記載がなかった。数値の出典を見ると『漁業養殖業生産統計年報』であった。特定の統計がどの資料に載っているかを調べるための『日本統計索引』でも、同じく同『年報』等に収録となっていた。当館での同『年報』の所蔵は、昭和40, 44, 54年版であったので、依頼者の要求している最新情報は満されなかった。農学部分館に調査を依頼する。同『年報』は所蔵していなかったが、昭和60年刊行の『農林水産省統計表（第60次）』に必要とする情報があると連絡がある。その旨を依頼者に伝える。

Q 2 : 宇野弘蔵「世界経済学の方法と目標」という論文を読みたい。

A : 主要論文ということなので、刊行されている『宇野弘蔵著作集』に収録されているかと思えるが、現品は研究室なので確認できなかった。論文を捜す場合、『雑誌記事索引』を検索する方法があるが、論文の発表年がわからないので、人物に関する参考文献や著作目録などの個人書誌が、いつ、どこにどのような形で発表されているかを調べるための『人物書誌索引』によって、〈宇野弘蔵〉の著作目録を収録している本を調査する。上記の『著作集』など4点が記載されていた。そのうち当館で所蔵している『マルクス経済学の研究』巻末の著作目録により、「世界経済」誌1950年7月号に発表された論文であり、単行本『社会科学の根本問題』にも収録されていることが確認された。「世界経済」誌は当館に所蔵していなかったため、所蔵していた『社会科学の根本問題』を依頼者に呈示した。

Q 3 : 山名正太郎『日本自殺情死紀』を読みたい。

A : 依頼者によると、出典は「朝日新聞」の3月の論壇時評である。評者が自殺を論じた箇所ので「強烈に思い出す本」として同書名を引用しているため読みたくなった、とのことである。時評には、出版年、出版社とも未記入であった。当館のカード目録を調べたが所蔵していない。現在購入可能な本の目録『日本書籍総目録』にも見当らなく、『人物書誌索引』にも〈山名正太郎〉の記載は無い。

主題に関する文献目録を調べるとき利用する『主題書誌索引』の「自殺」の項に7点記載されており、その内当館所蔵の2点に当るが該当書名は見当らない。

当館で所蔵している「自殺」に関する本（分類番号368.3, 145.7）に所収されている、参考文献・引用文献を調べる。その結果、『日本人の自殺』所収の姫岡勤・中久郎編「自殺研究文献目録」によると、依頼者の要求している本は、昭和3年に大同館より刊行された本であることが確認できた。当館にある他の機関の「蔵書目録」を調べたが所蔵している館はなかった。近隣図書館にも電話で所蔵調査を依頼するが、いずれの館も所蔵していなかった。本の刊行についての情報は確認できたが、所在の確認はとれなかった。

（当館所蔵の資料で所在の確認がとれなかった時は、他の機関へ照会もしている。）

漢籍目録紹介

愛媛大学附属図書館漢籍目録 1984. 3刊
同書人名索引 1985. 3刊
東京大学東洋文化研究所
附属東洋学文献センター 編
昭和56年3月現在 愛媛大学附属図書館所蔵の漢籍1,899点20,504冊を収録する。

昭和59年度 愛媛大学附属図書館統計

蔵書冊数

区分	和漢書	洋書	計
本館	414,104冊	143,073冊	557,177冊
医分館	24,675	27,881	52,556
農分館	59,714	14,049	73,763
計	498,493	185,003	683,496

貸出人数

区分	教職員	学生	その他	計
本館	1,446人	39,772人	167人	41,385人
医分館	5,417	6,262	36	11,715
農分館	1,275	3,228	125	4,628
計	8,138	49,262	328	57,728

増加冊数

区分	和漢書	洋書	計
本館	15,148冊	8,933冊	24,081冊
医分館	1,408	1,463	2,871
農分館	2,492	690	3,182
計	19,048	11,086	30,134

研究室貸出冊数

本館	17,892冊
医分館	1,319
農分館	1,561
計	20,772

受入雑誌種類数

区分	和雑誌	洋雑誌	計
本館	2,231種	1,256種	3,487種
医分館	545	429	974
農分館	1,023	395	1,418
計	3,799	2,080	5,879

学内文献複写処理件数

本館	1,724件
医分館	8,108
農分館	662
計	10,494

開館日数・入館者数

区分	開館日数	入館者数
本館	343日	307,630人
医分館	294	63,430
農分館	301	13,545
計		384,605

学外文献複写受付件数

区分	大学図書館	その他	計
本館	1,155件	54件	1,209件
医分館	1,478	37	1,515
農分館	203	1	204
計	2,836	92	2,928

貸出冊数

区分	教職員	学生	その他	計
本館	2,994冊	70,600冊	354冊	73,948冊
医分館	7,445	9,156	58	16,659
農分館	2,473	5,658	251	8,382
計	12,912	85,414	663	98,989

学外文献複写依頼件数

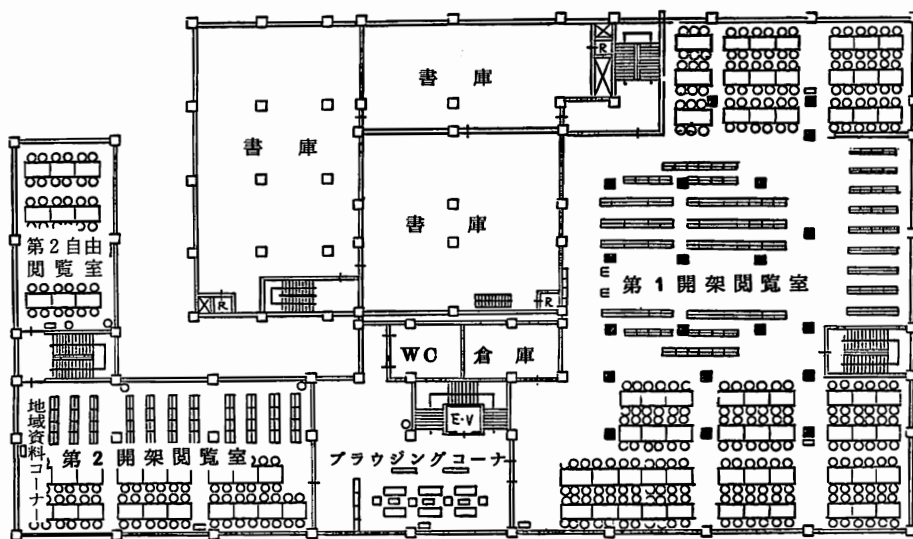
区分	大学図書館	その他	計
本館	2,116件	228件	2,344件
医分館	3,718	23	3,741
農分館	292	8	300
計	6,126	259	6,385

お知らせ

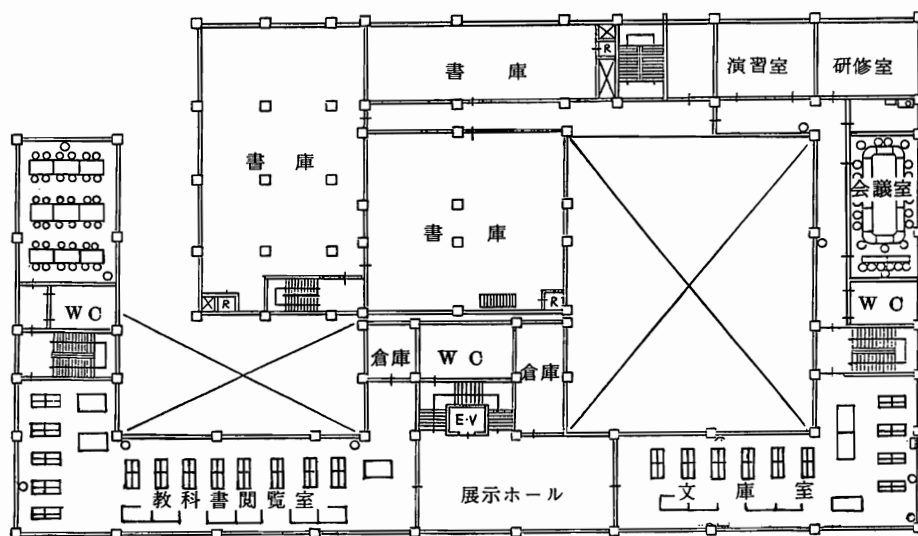
○ 資料の配置と室名の変更

9月から本館2階の第3開架閲覧室を第2自由閲覧室に、第2開架閲覧室の西側に地域資料コー

ナーを設けました。又、3階東の第6開架閲覧室を文庫室に、3階西の第4開架閲覧室を教科書閲覧室といたしました。



2階平面図



3階平面図

○ 学術雑誌係の新設

昭和60年4月1日付で閲覧課に、〔雑誌に関する業務を担当する学術雑誌係が新設されました。事務室は1階東側の閲覧課事務室内です。〕
(内線 3226, 3227)

○ 愛媛大学記念文庫について

昭和59年9月から昭和60年9月までの間に御寄贈いただいた図書は次のとおりです。
仲田 庸幸
文芸の奥庭 青葉図書 1984

阿部 真人

椋鳩十文学の研究 大日本図書 1984

古典教材の学習指導 文化評論出版 1976

大久保禎二

最適構造設計 丸善 1983

横飛 信昭

学生時代に何をなすべきか 講談社 1985

小泉 道

日本靈異記(新潮日本古典集成67) 新潮社
1984

渡辺 弘純

発達を創る保育実践の心理学 ささら書房
1984

外界操作の発達の心理学的研究 風間書房
1984

松浦 正史

教科教育学研究2 日本教育大学協会 1985

水野 信彦

淡水の魚と生物(学研の観察図鑑4)

学習研究社 1984

柳田 征司

音韻脱落・転成・同化の原理 1984

赤間 道夫

資本論の分析1 (講座資本論の研究2)

青木書店 1983

資本論6第2巻第2分冊 新日本出版 1985

福井 康之

まなざしの心理学 一視線と人間関係一

創元社 1984

白方 勝

近田永潔・八東・冬載歌文集(大洲文化叢書)

大洲文化双書刊行会 1985

伊藤 猛夫

仁淀川 一その自然と魚たち一

仁淀川水系生態研究会 1985

○ 学生希望図書について

昭和60年4月から昭和60年9月までに購入した学生希望図書は次のとおりです。

○ 宇宙天文大事典

中山行雄編 旺文社 1985

○ 演習憲法(法教演習シリーズ憲法2)

阿部照哉著 有斐閣 1985

○ 香港旅の雑学ノート

山口文憲著 ダイアモンド社 1979

○ 人口 一21世紀の地球一

西川 潤著 岩波書店 1984

○ 食糧 一21世紀の地球一

西川 潤著 岩波書店 1984

○ 徳川家康文書の研究 上, 中, 下

中村孝也著 日本学術振興会 1980

○ 人権と裁判

今村成和著 北大図書刊行会 1973

○ 日本ファシズム研究序説

安部博純著 未来社 1984

愛媛大学附属図書館報「図書館だより」

第20号 昭和60年10月25日発行

発行 愛媛大学附属図書館

松山市文京町3番

Tel 0899-24-7111